

平成 29 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：平成 29 年 6 月 17 日（土） 11：00～14：00

2. 場 所：岸記念体育会館 1 階 スポーツマンクラブ

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

北海道セーリング連盟：濱田賢、外洋北海道：中村一孝、岩手県ヨット連盟：長塚奉司、外洋津軽海峡：荒山雅仁、茨城県セーリング連盟：中村孝一、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、東京都ヨット連盟：落合光博、神奈川県セーリング連盟：平野豊、新潟県セーリング連盟：細井房明、外洋東京湾：松浦孝志、外洋三浦：庄野栄一、外洋湘南：新井五一、葉山マリーナヨットクラブ：村松哲太郎、静岡県セーリング連盟：杉山武靖、愛知県ヨット連盟：岡田彰、三重県ヨット連盟：原田佳幸、石川県セーリング連盟：石倉喜八郎、奈良県セーリング連盟：森谷大悟、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、大阪北港ヨットクラブ：高井博、NPO 岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、（社）山口県セーリング連盟：小泉周三、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、宮崎県セーリング連盟：樋口ゆみか、鹿児島県セーリング連盟：榮樂洋光、外洋玄海：久芳志治、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、（社）日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本レーザークラス協会：加藤重雄、日本ウィンドサーフィン連盟：加藤学、日本 IRC オーナーズ協会：石渡一夫

以上、出席 34 名

その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：中川千鶴子、桑原啓三、専務理事：鈴木修、常務理事：斎藤渉、坂谷定生、理事：平松隆、中澤信夫、川北達也、天辻康裕、関一人、富田三和子、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、森信和、大島茂樹、大西治夫、中村和哉、井川史朗、黒川重男、宇都光伸、監事：斉藤威、上野保、顧問：小田切満寿雄、参与：小山泰彦、大谷たかを、鈴木保夫、委員会委員長：平賀威役員候補推薦管理委員会委員長、安藤正雄事業開発委員長、芝田崇行環境委員長、大庭秀夫レース委員長、名方俊介 ODC 計測委員長、戸張房子国際委員長、高間信行障がい者推進委員会副委員長、広田喜世人 ODC 計測委員会委員、豊崎謙広報委員会委員、大村雅一事務局長兼ルール委員会副委員長、オブザーバー：信時裕（日本 470 協会）

以上、その他出席 39 名

4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 50 名中、出席 34 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は外尾竜一評議員に決定し、平成 29 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、松浦孝志、小泉周三の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

女性理事候補者枠の増員を図るとともに、理事経験者のうち連盟への貢献度大の方々の顧問への就任の道を拡大させるため、定款変更を行う。パラワールド選手派遣で募金活動を JSAF ホームページに掲載しているので協力いただきたい。アメリカズカップに挑戦した日本人クルーからそのノウハウをオリンピックナショナルチームにも伝えていただき、活用してほしい。また、平成 28 年度決算報告、役員選任等の重要な案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

5. 議案

1) 平成 28 年度事業報告及び決算報告 (案)

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 28 年度事業報告案について説明があった。

セーリングスポーツの発展振興について、①リオデジャネイロオリンピックの最高順位は 470 級女子の 5 位で、目標のメダルにはわずかに届かなかった。他の種目は振るわず、東京五輪への課題を多く残した。②国体・高体連のさらなる発展に向けて、第 71 回国民体育大会岩手国体が成功裏に開催され、東日本大震災に被災した岩手県のセーリング環境がいち早く復興したことを示した。また、ユース世代育成のため制式艇種 420 級とレーザー級が導入され、本格採用された。③世界選手権大会への支援は、モス級世界選手権大会ならびに J24 世界選手権大会の開催を支援し、両大会ともに成功裏に終了した。④大型艇レースの活性化について、ジャパンカップが成功裏に終わるとともに、沖縄―東海レース、パールレースなど国内の外洋レースも成功裏に開催された。

2020 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、各種国際大会に加え、セーリングワールドカップ(SWC)シリーズ (2017～2020 年) の日本開催が決定した。インターナショナル・ジャッジセミナー、インターナショナル・メジャーセミナー、レースマネジメント・クリニック等を開催し、IJ、IM、IRO の育成とレース運営者、審判員、計測員のスキルアップを図った。ボランティアの方々の国際大会への派遣、ボランティア・セミナーの開催等により、ボランティアの方々の活性化、スキルアップを図った。

広く普及啓発し、セーリング界の裾野を広げることは、①JSAFの会員増強に向けて、引き続き様々な策をとった。②「海と日本プロジェクト」のもと全国14か所で約8,000名の方々に体験乗船、ヨットレース観戦、絵画コンテスト等に参加いただいた。ボートショーに各委員会を横断して参加し、ジュニアから大人までのセーリング普及を図った。③サポート企業・団体・会員の開拓について、日の丸セーラーズ協賛企業9社が決定しご支援をいただいた。引き続き2020東京オリンピックに向けたセーリングのサポート企業・団体の開拓に努める。

セーリング界を支える連盟組織の強化については、①公益財団法人としての組織運営への対応で評議員、理事の改選を行った。障害者、アスリート、女性の役員増を図ることを目的に定款変更を行った。中央競技団体としての更なる自立、ガバナンスの強化、財政基盤を強化した。World Sailingで引き続きカウンスル・メンバー・ポストを確保するとともに、World Sailing、ASAF（アジア・セーリング連盟）などでの委員等のポストを確保し、NF（各国連盟）としての国際プレゼンスを保った。②障害者セーリングの窓口の設置について、連盟における障害者セーリング窓口を一本化する障害者セーリング推進委員会を発足させた。③会員管理新システムの本格移行について、会員管理新システム本格移行させるとともに、全面電子会員証化を進めた。④ホームページの充実について、JSAFホームページの更なる充実を図った。⑤レースオフィシャルズの向上について、IJセミナー、IMセミナー、IROクリニック等の開催、RRS・ERS改定に伴うジャッジ、レースオフィサー、メジャーの更新講習会等を開催してレースオフィシャルズのスキルアップと発掘を図った。⑥セーリングを支える委員会活動の活発化について、アスリート委員会を設置した。委員長会議を開催して、委員会間の連携、専務理事や事務局との連携を図り、問題を調整したとの発言があった。

齋藤常務理事から資料に基づき、平成28年度決算報告案について説明があった。

法人全体の収入合計は、529,536千円となり、予算比で46,633千円増加した。東京五輪準備委員会の協賛金収入が予算比35,321千円増加したことなどが主因で、メンバー会費収入・賛助会費収入は予算を若干下回り、前年対比でも微増に留まっている。支出合計は505,200千円（予算比31,346千円）を計上したが、東京五輪準備委員会及びオリ強委員会以外は、概ね2次補正予算で想定した通り、または支出が予算を多少下回って着地している。東京五輪準備委員会は、前述の協賛金収入の増加により次年度以降の競技会開催等に備えることができた。オリンピック強化委員会は、2次補正予算比で収入は16,363千円程度減少、支出は33,267千円ほど減少し、収支差額は16,457千円の黒字となり、東京オリンピック強化に備えることができた。投資活動収支については、従来と同様の積立の他、先にご承認頂いた特定費用準備資金を97,000千円積立し、その結果、当期収支差額は24,336千円の黒字となった。次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額65,610千円に24,336千円が加算され89,947千円となった。

なお、この特定費用準備資金は理事会の承認により設定されたもので、2020 東京五輪準備資金は 2016 年 4 月から 2021 年 3 月末までの間に 4 億円を限度として、2020 オリンピック強化資金は同期間に 1 億円を限度として積立てることができる。

財務の健全性は、当年度より東京五輪関係において収支とも金額が増加している。収入の増加は使途が特定されているものが多く、基本的な連盟の収入（メンバー会費など）に対し、支出のバランスを分析した。その結果、当年度は一般事業において 8,000 千円ほど黒字で財務健全性は確保できた。原因は、ルールブックの販売収入が予算比で 1,900 千円ほど上回ったことや、委員会別でみて支出が予算比で下回ったところが多かったことなど、いくつかの要因が重なったものである。その他、制式艇関係の寄付金の最終分の計上が 8,000 千円あったことにより、16,000 千円程度を一般財源として繰り越すことができた。ただし、このよい状態が毎年続くということは考えられず、将来の新たな事業や突発的な事態に備えて、今後も現状の収支レベルを維持し、より財務体質を強化しておくことが必要と判断する。なお、この分析については、東京五輪準備委員会、オリンピック強化委員会、環境委員会の収支と、使途指定の協賛金・寄付金収入などを除外して計算したものである。

貸借対照表での資産は、SWC 蒲郡大会の資金の前払金 47,000 千円の計上、特別費用準備金積立資産 97,000 千円の計上、オリ強関係補助金の未収入計上などより、最終的に 143,131 千円増加の 304,771 千円となった。負債は、SWC 蒲郡大会の資金の前受金 47,000 千円の計上、オリ強関係などの未払金の計上などにより、最終的に 44,351 千円増加の 86,894 千円となった。正味財産は、収支差額の黒字などを反映し前年比 98,780 千円増加の 217,873 千円となった。内訳は指定正味財産 15,588 千円、一般正味財産 202,285 千円である。

収支計算書内訳表からは、当連盟は「公益会計」「収益会計」「法人会計」の三つに会計を区分し、規程により、以下のように収支を按分している。会費収入は 50%を公益会計に計上、50%を法人会計に計上、管理費支出は 66%を公益会計、2%を収益会計、32%を法人会計に計上、当年度決算の収支差額は、公益会計 15,800 千円、収益会計 247 千円、法人会計 8,279 千円の黒字、前期繰越収支差額加算した次期繰越収支差額は、公益会計 4,418 千円、収益会計 1,376 千円、法人会計 84,152 千円となった。公益会計は収支相償が基本となるが、この観点から現状について特に問題ないと判断できるとの発言があった。

上野監事から、平成 28 年度決算報告の監査報告があった。決算報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められない。計算書類及びその付属明細書並びに財団目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認める。

平成 28 年度事業報告及び決算報告（案）は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

2) 平成 28・29 年度役員選任について

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 28・29 年度役員選任について説明があった。

平成 28・29 年度理事追加推薦について、委員会推薦は、①アスリート委員会から、関一人氏（アスリート委員長・会長推薦理事）の推薦があった。現理事である関氏が推薦されたことから、推薦区分の変更（会長推薦からアスリート委員会推薦）をした。②障がい者セーリング推進委員会から、高間信行氏（障がい者セーリング推進委員会副委員長・事務局長）の推薦があった。会長推薦（関理事の推薦区分の変更に伴って欠員となる）は、入部透氏（オリンピック準備委員会委員・国際委員会委員・2020 組織委員会セーリング・スポーツ・マネージャー）の推薦があった。なお、提案した理事候補者は、履歴書・推薦書・所信を含む立候補届を提出し、役員候補管理委員会にて審査を受けて、理事会承認された候補者を基礎としているとの発言があった。

平賀威役員推薦候補者管理委員長から、平成 29 年 2 月 25 日理事会決定を受けて、役員推薦候補者管理委員会で理事推薦候補の選出管理をした。昨年 5 月の理事会において、新たにアスリート委員会及び障がい者セーリング推進委員会の理事推薦候補者（各 1 名）及び全国加盟団体代表者会議の女性推薦候補者（1 名）が新設された。それを受けて、昨年 6 月の評議員会で定款の改訂（理事定数の変更：27 名から 30 名）が承認され、同日付を持って理事数は 30 名となった。しかしながら、アスリート委員会は昨年 5 月、障がい者セーリング推進委員会は昨年 9 月に発足したことから、前回の理事改選期時点では理事推薦候補者の選任を行うことができず、改定後の定款に定める両委員会の理事推薦候補者枠による理事は不在の状況にあった。両委員会の活動も実質的に開始されたことから、改めて上記両委員会からの理事推薦候補者の選任を行うことになり、両委員会に対して、委員会推薦の理事推薦候補者各 1 名の推薦を依頼した。その結果、委員会推薦で選出された 2 名のうち、アスリート委員会推薦は、既に昨年の評議員会で会長推薦理事として理事に選出されていた関一人理事でしたので、理事推薦枠を会長推薦から委員会推薦に変更を行った。障がい者セーリング推進委員会からの推薦候補者である高間信行氏は、障がい者セーリング推進委員会推薦候補として推薦した。関理事のアスリート委員会推薦理事への推薦区分変更により、会長推薦が 1 名欠員となったので、会長推薦理事候補として入部透氏を会長推薦理事推薦候補として推薦したとの報告があった。

鈴木専務理事から、定款 19 条では特別の利害関係を有する評議員を除き、候補者ごとに決議する。なお、関一人理事は、昨年の評議員会で理事に選出されており、本会でのあらためての決議は不要であるとの発言があった。

障がい者セーリング推薦委員会推薦理事候補の高間信行氏は、棄権・反対 0、満場一致で承認された。

会長推薦理事候補の入邊透氏は、棄権・反対 0、満場一致で承認された。

3) 定款の変更

鈴木専務理事から資料に基づき、定款改訂について説明があった。

JSAF における女性活躍推進施策推進に伴う定款並びに理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂について、具体的内容は、女性理事候補者枠の増員を図るとともに、理事経験者のうち連盟への貢献度大の方々の顧問への就任の道を拡大させるため、以下の改訂を行う。定款第 21 条（役員）第 1 項 1 号の理事 23 名以上 30 名以内を 23 名以上 32 名以内とする。また、第 28 条（名誉総裁、名誉会長、顧問及び参与）本連盟に名誉総裁 1 名、名誉会長 1 名、顧問 4 名以内及び参与 5 名以内を置くことができるを名誉総裁 1 名、名誉会長 1 名、参与 5 名以内及び顧問を置くことができる（顧問定員の廃止）とする。なお、定款第 21 条第 1 項第 1 号に定める理事の定数 23 名～32 名以内で、各推薦候補者のカテゴリー毎に配分を、水域による推薦候補者 13 名、全国加盟団体代表者会議の推薦候補者（含む会長推薦候補者）9 名、全国加盟団体代表者会議の女性推薦候補者 3 名（現行 1 名）、会長による推薦候補者 4 名（現行 5 名）、会長による女性推薦候補者 1 名（現行 0 名）、アスリート委員会の推薦候補者 1 名、障がい者セーリング推進委員会の推薦候補者 1 名とするとの発言があった。

定款変更は、棄権 0、反対 0、賛成 34 名、評議員数 50 名の 2/3 以上の賛成と認められ、承認された。

4) 「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体大会」ご挨拶

愛顔つなぐえひめ国体リハーサル大会・新居浜市実行委員会事務局次長の佐藤博幸様から、セーリング競技会の資料に基づき、「愛顔つなぐえひめ国体リハーサル大会」開催について挨拶があった。

引き続き、新居浜市実行委員会副室長の近藤淳司様から準備状況の説明があった。平成 29 年 10 月 1～4 日、新居浜マリーナにおいて開催する。海上は風が弱く、潮の流れもあるところだが、多くの選手に参加していただくように準備取り組んでいるので、連盟関係者各位のご協力をお願いしたいとの発言があった。

5) 評議員からの質問及び報告

大阪北港ヨットクラブの高井博評議員から資料に基づき、JSAF 会員継続の件について質問があった。

今年度から会員継続をそれぞれの個人が申し込み、送金する方式となったが、当ヨ

ットクラブでの継続者が大幅に減少するのではないかと危惧している。それは、ヨット競技者以外にクルージング派も多く、この機会に JSAF 会員から退会の気運がある。会員のベースになっておられる方々が高年齢化しており、退会の理由を生じている。また、カード不発行でステータスがなくなり、会員年会費の集金目的のためのみを感じている。また、今まで、カード発行で会員継続の促進を個別に対応していたが、会員継続の合理化策の一環で、会員が減少することを危惧しているとの発言があった。

鈴木保夫総務委員会委員から、今年度 JSAF 年会費の決済代行への原則全面移行により、加盟団体担当者における JSAF 年会費徴収業務の軽減が図られている。併せて、JSAF 会員証の電子化への全面移行も行なっているが、会員レベル、加盟団体担当者レベルで電子会員証の印刷方法がわかりにくいため、現在簡易印刷化へ向けてシステムを改善中している。なお、JSAF 年会費は、元来 JSAF 公認レースへの参加要件として位置づけられており、レースに参加されない方々に対する JSAF 年会費納付メリットは、メンバー保険への自動付保のみとなっていることも認識している。また、外洋加盟団体においては、会員証の必要性があり、団体個別に発行しているのでご相談いただきたい。引き続き、事務効率化にご協力いただきたいとの回答があった。

6) 委員会報告

・オリンピック強化委員会報告

齋藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。

国際大会の主な成績は、プリンセスソフィア大会（3/27～4/1、スペイン・パルマ）470 男子（56 艇参加）で、磯崎哲也・高柳彬組が優勝した。ワールドカップ・イエール大会（4/23-30、フランス・イエール）470 男子（35 艇参加）で、高山大智・今村公彦組が 5 位の成績をおさめた。また、オランダで開催されたデルタロイド大会で、レーザーラジアルクラスの土居愛実選手が優勝した。最近ではメダルレース進出も各種目で増えている。また、JAL ネクストアスリート・マイルの資料に基づき、JAL マイル登録の参加について依頼があった。JAL マイル 1 口 2,000 マイル協力いただくと同額を JAL が拠出して各競技団体へ寄付するシステムになっている。現在、19 競技団体が参加していて、選手強化費や用具購入費に使用されている。JSAF ホームページにも掲載しているので、ご協力いただきたいとの発言があった。

・障がい者セーリング推進委員会報告

高間障がい者セーリング委員会副委員長から資料に基づき、障がい者セーリング委員会報告があった。

①強化拠点については、選定条件を開示し公募する。委員会において、応募内容を

精査して理事会審議決定する。②強化艇種の選定については、セーリングワールドカップ、パラワールドにおける採用艇、Norlin2.4OD（一人乗りキールボート艇）、Hansa303（センターボード艇）、Wetaについては、今後のWorld Sailingの動向及び強化艇種の改善状況を考慮して、JSAFとしての強化艇種選定期間を判断する。③普及推進艇の選定については、ハンザワールド等で使用されており、日本での普及艇数も多いHansa2.3を考えている。④強化活動資金確保のための寄付活動については、委員会内に担当チームを作り、稼動し始めている。寄付はJSAFの規定に従い行う。⑤パラワールドへの選手派遣で緊急募金活動を行っている。⑥パラワールドの種目については、World Sailing年次総会に、現在採用されているHansa303の乗員を1名から2名に変更し、視覚障がい者と肢体障がい者の構成にならないか、また男女混合での組み合わせの種目に変更できないかの提案を検討しているとの発言があった。

・ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①RRS2017-2020は、3月末時点で約2,900冊を販売した。また、来年1月より電子版の販売（1,000円）を予定している。②本年度も12～3月に指導者・選手向けルール講習会を開催予定である。③A級ジャッジ更新講習会は、全国10カ所で12回開催し、約240名が資格更新した。アンパイアは3回開催済みであと4回開催予定、B級ジャッジは各団体で開催している。④全国の居住地別のA級ジャッジ、アンパイア、ルール委員のリストをWEBに公開しているので、ルール委員派遣の希望があれば連絡いただきたい。⑤各団体でルール・ジャッジ関係代表者を登録いただいているかをルール委員会ホームページで確認いただきたい。⑥上告否認ならびにメダルレースのための付属文書Q（アデンダムQ）は、JSAF承認が必要なことから早めに準備と申請をしていただきたい。⑦ルール委員会の開催予定や議事次第・議事録は、WEBで公開しているとの発言があった。

・国体委員会報告

末木委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。

愛媛国体予備エントリーは、7月1日締め切り期限までをお願いしたい。監督は、日本協公認スポーツ指導者有資格者のみで、有資格者の監督が参加できない場合は選手のみ参加を認めないので注意していただきたい。また、競技団体が認定した世界選手権大会に出場する選手やトップアスリート参加資格特例措置対象者は、都道府県予選会を免除することができる。ドーピング検査では大会期間中「ドーピング防止ガイドブック」の携帯を義務付けられたとの発言があった。

・レディース委員会報告

富田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会報告があった。

①エンジョイセーリングについては、今年度計画していた第15回エンジョイセーリングは、チャイルドルーム設置を中心に取り組んでいくために実施を見送ることとした。②チャイルドルーム開設予定については、今年度5大会でチャイルドルーム設置を計画している。準備や受付業務はレディース委員会が行うが、保育士または幼稚園教諭の免許を所有している方を募集している。③東京2020に向けては、チャイルドルームの設置を目標に、他の競技団体（柔道やバレーボール等）にも働きかける。④JOC研修一部報告については、あらゆる場（大会会場・運営・強化の場面等々）に女性が普通に自然にいるようにしていく。また、アスリートを育てる女性指導者を育成するためには、現役の選手であるときから、将来指導者として活動していく方向性を示す必要があるとの発言があった。

・外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から資料に基づき、フラッグ・リレーについて報告があった。

「2020年東京オリンピックを成功させよう！」「疾走れ！世界のセーラーたち」「海をきれいに」の3スローガンをヨットに掲げながら日本の海を航海している「フラッグ・リレー」は、2020オリンピック・パラリンピック組織委員会から参画プロジェクトとして認定され、5月2日スタートの小笠原レースでキックオフした。現在は、復興するいわきから仙台までフラッグを引き継いでいる。フラッグの引き継ぎ式では、地元市民の皆さんや県知事・市町村長さん方も参加していただき、2020年東京オリンピックの成功に向けての盛り上がり、セーリングの普及・啓発をはかっているとの発言があった。

・普及指導委員会報告

川北普及指導委員長から、日本財団「海と日本プロジェクト」報告があった。昨年度に引き続き、日本財団から2,000万円の助成金を得て、6月24日の香川県を皮切りに、愛媛10月4日までの間に全国13か所で、海の日普及イベントを開催予定である。今年度は、メディア露出を強く求められており、各地でテレビ、新聞などに掲載予定であるとの発言があった。

・その他報告

①大村事務局長から海上保安庁警備救難課からの資料に基づき、「平成29年度海洋環境保全推進月間」の実施について周知があった。

②大村事務局長から総務省から資料に基づき、国際VHFチャンネルの用途変更について周知があった。

③大村事務局長から資料に基づき、テザー級ヨット世界選手権大会について案内

があった。本年 7 月 30 日～8 月 6 日、豊田自動織機海陽ヨットハーバーで開催されるとの発言があった。

以上、平成 29 年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 29 年 6 月 17 日

会 長 河 野 博 文

議 長 外 尾 竜 一

議事録署名人 松 浦 孝 志

議事録署名人 小 泉 周 三